

本県児童生徒の学力の現状と検討の視点

1 求められる学力

文中の〔資1〕等は参考データ集の資料番号を示す。

(1) 確かな学力 [資1]

- 知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などまでを含むもので、学ぶ意欲を重視した、これからの子どもたちに求められる学力

(2) 児童生徒の学力

本県児童生徒の学力の現状

1) 学力の国際比較 [資2]

- 日本の児童生徒の学力は、国際的に見て上位。ただし、読解力など低下傾向

2) 全国学力・学習状況調査結果

- 小学校、中学校の国語、算数(数学)の全てにおいて全国平均を上回り、都道府県の中でもトップクラス
- 従来、知識技能の習得に重点。今後、活用する力、応用力などバランスの取れた学力の育成が求められる。

3) 大学入試センター試験結果

- センター試験上位層は全国より多いが、受験者が多いため、下位層も多く、平均点が全国より低い
- 難関大学に対する学習指導上のノウハウが十分に継承されていない。教科によっては教員数が少なく、改善に限界がある。

進路状況

1) 県内中学校・高等学校卒業者の進路状況 [資3]

- 高校進学率 98.8%(全国2位) 大学等進学率 53.6%(全国13位)
- 国公立大学入学率 20.6%(全国2位) 県内企業就職率(高卒) 93.5%(全国3位)

2) 離職状況等 [資4]

- 新規高卒就職者の離職割合は全国より低い、20%が1年以内に離職している。
- 価値観の多様な生徒への、進路意識や職業観を養う効果的な指導が必要

(3) 社会が求める能力 [資5]

- 「社会の変化に対応できる知識・技能等」、「豊かな人間性・社会性」、「たくましく生きるための健康や体力」などを身に付けることが求められている。

2 子どもたちの学ぶ意欲、学ぶ力等と学力

(1) 子どもたちの学習習慣と学習意欲

学校外での学習時間 [資6]

- 小学校、中学校ともに普段、1時間以上2時間より少ないが最も多い学習塾に通っていない生徒の割合は全国に比べ大変高い。
- 高校では、学習習慣の確立が不十分な生徒が多く、基礎・基本の定着に苦労している。

学習意欲等 [資7]

- 日本の生徒(高1)は、家庭学習時間は諸外国より短く、学ぶ意欲に課題がある。
- 学年進行とともに学習意欲の低下や低学力層の増加傾向がみられる。特に、中学生になると「勉強好き」が急減。学習環境の変化に適応できていない。個人差に応じた丁寧な指導が必要

(2) 子どもたちの学ぶ意欲を減退させている原因や背景

テレビ、ゲーム、インターネット、携帯電話等情報メディア [資8]

- テレビやビデオの視聴時間は諸外国より長く、宿題をする時間は短い
- 本県の小中学生は、携帯電話の所有率が全国に比べ低い。

基本的な生活習慣 [資9]

- 朝食を毎日食べている児童生徒は、小90%、中88%、高82%

家族とのコミュニケーション [資 10]

- 小、中、高校と進むにつれ、家族とのコミュニケーションが減っている。

多様な価値観 [資 11]

- 日本の青少年は、努力や向上心などの意欲に欠ける。また、親は、子どもが「学校でよい成績をとる」ことへの期待の度合いが低い

3 学校における教育と学力

(1) 学校の教育力の強化

授業の改善 [資 12]

1) 授業時数の確保

- 小中学校学習指導要領上の授業時数は減少 S44 年...7312 時間 H10 年...6475 時間
- 補充的な指導、宿題等で不足分を補う

2) 授業内容の充実

- 小、中、高と進むにつれて授業が分かる割合が減少
- 授業内容に対する満足度は、全国に比して高い 小 88%(全国 75%) 中 75%(全国 61%)

児童生徒と向き合う時間の確保 [資 13]

1) 教員の勤務実態

- 勤務日の残業時間・持ち帰り時間の合計は、小中高とも平均 2 時間超
- 残業の業務内容は、成績処理、授業準備、部活動など
- 教員の精神性疾患による休職者数 年々増加

2) 教員数と学級規模

- 児童生徒数が減少する中、教員 1 人当たりの児童生徒数は着実に改善
- 学級規模 小は 21~30 人以下の学級数、中は 36 人以上の学級数が最も多い
- 中学校以降において、学年の進行とともに学力と学習意欲の低下が見られ、個人差に応じた丁寧な指導への対応が必要

学校評価システムの導入 [資 14]

- とやま型学校評価システムは 19 年度までに全ての小中学校に導入(高校は導入済)
- アクションプランを作成し、数値目標の設定、外部評価の導入、評価結果の公表

保護者・地域の教育力の結集 [資 15]

- 本県の P T A 活動は、熱心で積極的に学校を支援
- 地域の行事に参加している児童生徒の割合は、全国に比べ大変高い

(2) 教師力の強化

教員に求められる力

- 「情熱と使命感」「幅広い視野」「高い専門性と指導力」

教員の資質向上(指導力の向上) [資 16]

- 教員の自主的研修、校内研修、県教委等の研修、教育研究諸団体の研修など幅広く実施
- 今後、校長や先輩・同僚から指導技術等を学ぶ O J T の活性化などが求められる。
- 教員評価制度の導入(H19~)、免許更新制度の導入(H21~)、指導が不適切な教員の排除

4 市町村教育委員会と県教育委員会の役割 [資 17]

人的な支援
調査研究

教員の資質向上への支援
国等への働きかけ

教育環境の整備

5 家庭、地域、社会の役割

(1) 家庭の役割

基本的な生活習慣の確立

自立への意欲の基盤を培う

(2) 地域、社会の役割

学校への人的支援

地域での教育